

徳島レビューin徳島大学

平成29年11月19日

農林漁業の人材確保について

株式会社久松農園 久松達央

定着は結果であって

目的ではない

「独立就農」は討ち死にモデル

- 農業全体が集約化・組織化に向かう中
個人の新規参入者が成功する余地は少ない
- 家族で安定する1000万円に到達しない
既存の農家ですら9割は達していない
- 成功率は1割程度。年齢制限が高く、失敗者のリカバリーが困難

やる人は助成がなくてもやる

- 世の9割はサラリーマンだが農家の9割は自営
- 起業したい人は、留めても勝手にやる
- 起業家が最も奪われたくないのは「自由」
- 必要なのは手本とネットワーク

何をやるかより、誰とやるか

審査が甘い助成金がもたらすもの

- 研修は修業。自己投資の期間
- 月15万円は、新規就農者には多すぎる
 - 1円の売上を取りに行かなくなっている
- 「補助金ゴロ」の実態
- 市・県職員への負担
- 農業大学校等が助成金をアテにする

農家の子弟への補助は無意味

- 既存の農家の事業継承に必要なのは、事業そのものへのコンサルティング
- 土地の取得、税制等で既に優位性がある既存の農家に対して補助をすることは、就農者を増やすという目的に合致しない

農業法人の雇用を増やす事が肝要

○世の9割はサラリーマン

雇用就農が増えることで人材の数も幅も広がる

○独立就農者よりも、ミドルマネージャーの

育成が業界の急務

○農業が普通の産業になり、流動性が高まる

ことが真の「定着」

改善提案

- 農家の子弟への助成は不要
- encouragementであれば額は10分の1で十分
- 年齢制限を35歳までに
- 参入ではなく、軌道に乗った経営へのコンサルティングが必要。サポートビジネス